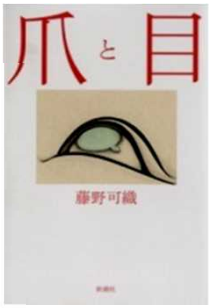
図書だより

白楊高校図書館　　2013.9.18

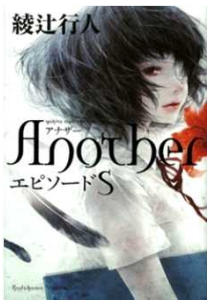
こんにちは！アッという間の夏休みも終わって早３週間…
いかがお過ごしでしょうか？急に空気が涼しくなってまいりました。あの凄まじい暑さが去って、ホッとしたような、少し寂しいような。でも、このセンチメンタルな感じも嫌いじゃない今日この頃。秋って良いですよね。芋栗カボチャはおいしいし、梨と葡萄もおいしいし、あと秋刀魚も。司書の食欲もピークを迎える季節ですが（ピークは正月まで続く）、ここは図書室ですし、気分は読書の秋です。みなさんも秋の夜長に本の世界にドップリ浸ってみて下さい！くれぐれも寝不足にならない程度で！

NEW



爪と目
（藤野可織）

7月に発表された、第149回芥川賞受賞作です。史上もっとも饒舌な「三歳児」――選考会を震撼させた、純文学ホラー。



Another
エピソードS
（綾辻行人）

一人で過ごした海辺の町、そこで出会った幽霊との、不思議な探索行。名作ホラー、続編がついに登場。

死神の浮力
（伊坂幸太郎）

7日間対象の人間を観察し、「可」か「見送り」を判定。「可」の場合8日目にその人間の死を見届ける……。
ベストセラー『死神の精度』から8年。死神の「千葉」が、長編で帰ってきました。

日本人の
知らない日本語　4

シリーズ累計200万部の大ベストセラー、最新刊です。
第四弾となる今作では、おなじみ凪子先生と，漫画担当の蛇蔵さんが海外上陸!

宮沢賢治の
菜食思想
（鶴田静）

私は春から生物のからだを食ふのをやめました――宮沢賢治が実践した東北での「農」と菜食。

宮崎駿監督引退!!　ということで、図書室で読めるジブリにまつわる本を紹介します!
みなさんはどの作品が好きですか?

風の谷のナウシカ

映画は見たことがあるけど、原作も読んだという人はそんなに多くないのでは？
ジブリ作品に興味のある人に強くお勧めします。ナウシカをより深く知ることができます。映画の内容はこの漫画だと2巻の中盤くらいまでです。

風立ちぬ

昭和初期の小説家、堀辰雄は、大正12年、19歳の時に結核を発病。自ら病みつつ、より病状の重かった婚約者に付き添いサナトリウムに入った数ヶ月の経験をふまえて書かれたのが本作です。
映画は堀辰雄と、ゼロ戦設計者の堀越二郎の人生がモデルになっています。

魔女の宅急便

主人公のキキが親元を離れ、知らない町で魔女として一人立ちする姿を描いた作品。こちらもほとんどの人が映画を見たことのあるのではないでしょうか。ちなみに司書はこれが一番好きです。

とてもとても重要なお知らせ

10月15日～18日に図書室で蔵書点検を実施します。
その都合で、10月1日～18日は本の貸出が出来なくなりますので、ご了承下さい。
※10月11日までは図書室自体は開いています。

10月12日までに借りている本は必ず返却して下さい！！

蔵書点検とは本の所在を調べる作業です。１年も過ぎると所蔵している場所とは、全く違う書架に置かれていたり、極端な場合、無くなっていたりもします。
これらを防止するために、図書室では毎年、蔵書点検を行っています。

☆コミックコーナーにもジブリシリーズ揃っています。

・天空の城ラピュタ　・となりのトトロ　・魔女の宅急便
・紅の豚　・もののけ姫　・千と千尋の神隠し

図書室前の棚の引き出しの中に、購買の揚げ物が入っていた袋と楊枝が捨ててありました。あの棚はゴミ箱ではありません。
正しいか悪いか、よく考えてから行動しましょう。

先生のオススメ

今月本の紹介をして下さるのは、英語の先生で、
とてつもなく読書家の、大木先生と七五三掛先生です。
図書室でバッタリ会えたら、本の話をしてみよう!

英語科
七五三掛青　先生

「あかんべえ」
宮部みゆき
新潮社

「夜市」
恒川光太郎
角川書店

「きつねのはなし」
森見登美彦
新潮社

画:　黒猫

英語科
大木弘行　先生

「爪と目」
藤野可織
新潮社

「ホテルローヤル」
桜木紫乃
集英社

画:　しもつかれ

『のぞいてみよう知らない世界　ー怪奇と不思議』

みなさんこんにちは。少し秋らしくなってきましたね。今回私が紹介する本は、まず宮部みゆきさんの時代物2点です。**『あかんべえ（上・下）』**では、いわゆる見える女の子と亡者（お化け）の関係が書かれています。結末に思わず涙してしまうかもしれません。**『幻色江戸ごよみ』**は短編12編からなり、老猫の皮で作った頭巾にまつわる「だるま猫」という作品が私のお気に入りです。どの作品でも、たっぷりの愛情・人情と少しの怪異さを味わえます。

ほかに不思議な世界を味わいたいときには、恒川光太郎さんの**『夜市』**、森見登美彦さんの**『きつねのはなし』**がお薦め。図書館には、他にも二人の作品がたくさんありますよ。森見さんの作品の中には、「宵山」、「金魚模様の浴衣の女の子」、「テングブラン」など共通して出てくるワードがあります。新刊の**『聖なる怠け者の冒険』**は**『四畳半神話体系』**などが好きな人向けかも。

『パンダの死体はよみがえる』、や**『粘菌ーその驚くべき知性』**なども面白かったです。今は**『昔話の深層』**（河合隼雄）を読んでいます。昔話の登場人物を心理学的にみると、人の心理の普遍性を垣間見ているようです。

『鰆(ｻﾜﾗ)は下半身が美味!』

去る7月17日(水)、第149回芥川賞・直木賞の選考会が開かれ、藤野可織さんの**「爪と目」**(芥川賞)・桜木紫乃さんの**「ホテルローヤル」**(直木賞)がそれぞれ受賞した。この二つの賞は「日本の二大文学賞」と謳われ、芥川賞が「純文学」、直木賞が「大衆文学」作品に与えられるということになっている。
ただ実際に受賞作と作家を見てみると、芥川賞は「作品」に対して与えられる賞なのに対して、直木賞は「作家」に与えられる賞に近い性格を持っているようである。結果、芥川賞を受賞した作家がその後も継続して質の高い作品を創作し続けられるかというと必ずしもそうではなく、受賞後作家として「鳴かず飛ばず」ってことも珍しくない。19歳という芥川賞最年少受賞記録を持つ綿谷りさ氏の**「勝手にふるえてろ」**(文春文庫)に収録されている短編「仲良くしようか」を読むとその辺りの苦しみがよく分かる。一方、直木賞受賞作家は既に職業作家として自立している場合が殆どである。

ここまで読んでくれた諸君に直木賞作家の楽しみ方(裏技)を伝授しよう。直木賞受賞作は確かに悪くはないのだが、実はそのひとつ前の作品(直木賞候補に挙がっている場合が多い)が最高に面白い!どうせ読むならいきなり受賞作を手に取るよりも、受賞作の前作・前々作あたりを狙った方がその作家のまるで『寒鰆の下半身の如く』脂が乗った一番美味しいところを楽しめるはず!?

図書委員さんオススメ

「火事場の仕事力」　ゆでたまご・嶋田隆司

この本は今年で生誕30周年を迎え、再連載された「キン肉マン」の作者、ゆでたまごの不況に負けないパワフルな仕事力、これぞ、ゆでたまごの友情パワーが書かれた本です！！
「キン肉マン」を読んだ人も読んだことのない人もとてもためになる本なのでぜひ読んでください！
屁のつっぱりはいらんですよ！

3-1　男子

「魔女の宅急便」　角野栄子

ジブリ作品でも有名で、たぶんきっと一度は見たであろう物語。通称「魔女宅」ｗｗ
お母さんが魔女、お父さんが普通の人。その間に生まれた一人娘のキキ。魔女の世界では13歳になると独り立ちするという決まりがありました。
ある満月の日、相棒のジジとともにほうきで空に飛び立ちます。
新しい街、新しい生活。自分のできることを精一杯やって時に失敗しながらも成長していく物語。
友情と、感動のラストにほうきに乗ってれっつゴー！！

某図書委員ｗ

百田尚樹　NAOKI HYAKUTA

今月紹介するのは、白楊図書館でも人気急上昇中、百田尚樹さんです。異端の経営者をモデルにした『海賊と呼ばれた男』で今年の本屋大賞を受賞しました。メディアへの出演も多く、知っている人も多いのではないでしょうか。
テレビの放送作家を20年以上に渡って務め、50歳の時、特攻隊を巡る群像小説『永遠の0』で作家デビュー。この作品は今年12月に山崎貴監督、岡田准一主演、三浦春馬、井上真央らの出演での実写映画も公開予定です。
戦争から、経済小説、恋愛、ボクシングなど幅広く、まったく同じジャンルの作品は2度と書かないと宣言している作家さんです。